

□熊本市総合防災訓練

—災害に対する備え—

熊本市総務局総務部

総合防災課 内 田 敬 一

1 はじめに

熊本市は九州の中央、熊本県の西北部にあって有明海に面し、坪井川、白川、緑川の3水系の下流部に形成された熊本平野の大部分を占めている。また、阿蘇火山と金峰山系との接合地帯の上に位置する本市は数多くの山岳、丘陵、台地、平野等によって形成している。このような地形及び自然環境により、過去、風水害、地震等の災害を幾度となく繰り返してきた。

(1) 風水害

本市は九州中部にあって、梅雨期には多量の降雨があり、また、台風来襲期には豪雨の多い地域でもある。熊本平野は白川や緑川などの河川の運ぶ土砂によって形成されたことから、豪雨時の洪水災害が繰り返された地域であり、山地や台地辺部の急傾斜部では土砂崩れにも注意が必要とされる。

(2) 地震活動

観測記録に基づいた1885年以降の資料によれば、九州中部において主な地震の震源は本市を含む「別府一島原地溝帯」に沿って分布している。これらの地震の規模はマグニチュード6.0～6.9となっている。本市では1889年(明治22年)に熊本地震(マグニチ

ュード6.3)が発生している。また、今年6月8日には熊本地方を震源とする地震があり、震度5弱を観測しマグニチュードは4.9と推定され、地質構造や活断層の分布から、今後内陸直下型のマグニチュード6.5クラス、震度6以上の地震が起こりうる可能性がある。

2 訓練の目的

上記のような状況のもと、本市は防災対策の一環として毎年、風水害・地震に備えた総合防災訓練を実施している。

この訓練は、熊本市・防災関係機関及び民間協力団体が一体となって、防災関係機関相互の連絡協調体制の確立と防災技術の向上、市民の防災意識の高揚を図ることを目的としている。

3 訓練の概要

熊本市総合防災訓練は今年度で35回目を迎える。

訓練は大きく二つに分け、一部は水災訓練とし熊本・阿蘇地方を中心に1時間に50

ミリ以上の雨が断続的に降り続き、河川が増水、局地的な被害が発生し始めたという想定で訓練を開始した。二部は震災訓練でマグニチュード6.5、震度6弱の直下型地震が発生し、甚大な被害が発生したという想定で実施した。

一部、二部とも、大規模災害を想定したものである。

(1) 日時

平成12年6月1日(木)午前9時00分～
12時00分

(2) 場所(図1)

熊本市本山2丁目、白川泰平橋下流兩岸

(3) 訓練テーマ

『災害に強い安全なまちづくり』

(4) 訓練目標

- ①防災関係機関・団体相互の連携強化
- ②市民参加による市民防災活動の向上
- ③ボランティア・グループによる炊き出し等の後方支援

(5) 参加団体・人員・車両等

参加団体34団体、参加人員1748人、出場車両112台、ヘリコプター4機で車両等については例年とほぼ同じであった。

また、ここ2～3年の特徴として、自主防災クラブ及び各ボランティア・グループの参加が増えている。

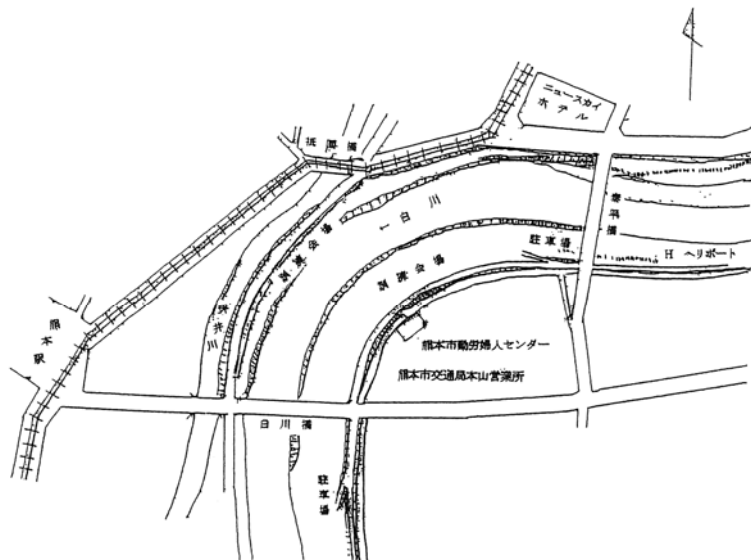
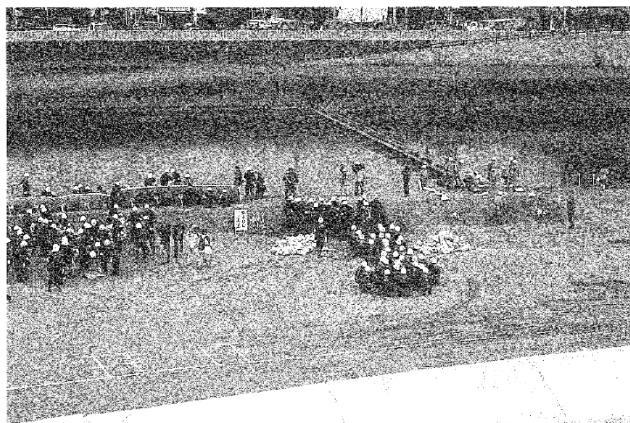


図1

(6) 訓練内容

【第一部（水災訓練）】

訓練 順序	訓練種目	開始 時間	所要 時間
開 会 式	1 開 会 宣 言	9:00	1
	2 国 旗 掲 揚	9:01	2
	3 人 員 報 告	9:03	2
	4 巡 閲	9:05	4
	5 災害対策本部長挨拶	9:09	3
	6 来賓挨拶	9:12	2
第 一 部 水 災 訓 練	1 第 1 部 想 定 発 表	9:14	2
	2 水防第2信号・水防第3信号発令	9:16	1
	3 河川パトロール 情報収集・伝達訓練	9:17	5
	4 被災状況偵察及び通信筒投下訓練	9:22	2
	5 水防工法訓練 ・積土俵工法 ・月の輪工法 ・築まわし工法・ラバーマット工法 ・折返し工法	9:24	15
	6 水防第4信号発令	9:39	1
	7 避難勧告・指示・誘導訓練 (交通規則・災害広報訓練・避難誘導)	9:40	15
	8 孤立者の救助訓練	9:55	5
	9 炊き出し訓練	10:00	60
	10 臨時郵便局設置訓練・通信施設災害復旧訓練・ 災害臨時電話設置訓練	10:01	15
	11 防疫訓練	10:16	5
	12 避難誘導訓練〔軽徒橋設置〕	10:21	1



水災訓練

【第二部（震災訓練）】

第二部 震災訓練	1	第2部想定発表	10:22	2
	2	市民防災活動訓練 ・初期活動訓練 (消火・救出・応急手当・避難等) ・避難誘導指導 ・災害広報訓練	10:24	20
	3	情報収集訓練	10:44	5
	4	臨時救護所設置訓練	10:49	15
	5	震災合同対処訓練 障害者除去訓練 緊急輸送路確保訓練(交通規制) 倒壊家屋対処訓練 倒壊ビル対処訓練 同時多発火災対処訓練 土砂埋没車両対処訓練 傷病者応急処置訓練 傷病者空輸訓練	10:54	35
	6	ライフライン災害復旧訓練 ・電力施設災害復旧訓練 ・ガス施設災害復旧訓練 ・水道施設災害復旧訓練 災害対策本部長巡視	11:29	26
閉会式	1	講評(全員整列)	11:35	20
	2	国旗後納	11:55	3
	3	閉会宣言	11:58	1
	4	解散	11:59	1
			12:00	



震災訓練

4 おわりに

全ての訓練を予定どおり無事に終了でき所期の目的を果たすことができたが、この訓練は計画に基づいたものであり、参加者全員が心の準備をしての訓練であった。

しかし、実際の大災害の場合はストーリ

ーのないものであり、自主防災クラブ等の住民と防災関係機関等の連携のもと統制の取れた活動等が必要となる。今後の総合防災訓練はそれらを十分に検討し、実災害による被害の軽減を目標に有効な訓練となるよう努力していきたいと考える。

